

# 陸上運動部部便り

2006年8月号

## 七大戦

### 目次

1	七大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	9
2	2006年度部内5傑 2006.7.30.現在	13
3	自己記録更新者一覧 2006.7.9~7.30	14
4	主務より	15

## 1 七大戦

### 1.1 監督の言葉

七大戦(男子6年ぶりの優勝、女子トラック全種目で入賞) 監督 寺田 秋夫

男子75回、女子17回となる7大戦は、滋賀県皇子山陸上競技場で開催されました。男子は5年間も優勝から遠ざかり、去年も5位と低迷しましたが、昨年とほぼ同じ陣容で臨める今年は、正にリベンジの試合となりました。昨年も優勝を争える力がありながら取りこぼしが多く、今年も他校からは「東大は持ち記録上は1番だが、怖い相手ではない」と目されていたと思います。監督を拝命したときから「力さえ出せば勝てるのだから男子7大は勝とう」と決めていたので、関東インカレ終了後から「勝てる筈だから自信を持って行こう」とデータを示たりしてやってきました。結果的には4種目しか優勝がない中で91.5点を獲得し、両リレー含め9種目で優勝の京大に10点差をつけ優勝を果たしました。主将竹内が優勝・スコンク勝ちの幅跳びなど華々しい種目もありましたが、エースが結果を出し、個人名を挙げだすとキリがないほど、下位ながら点を確保した穴種目や、2番手選手の執念の活躍が今日の結果の本

質です。厳しくなりかけていた純短系で下級生が可能性を見せてくれたのも今後に向けて良い兆しです。他方女子は、リレーを組むのもやっとで、本職で結果を出すために出場種目を絞る作戦でしたが、それでも全員多種目出場で体力が心配な試合となりました。ところがこちらでも作戦の中で、トラック全種目で得点し9点獲得の4位です。優勝は5連覇の名大で、下級生を中心に躍進の北大も来年は台風の目になりそうです。来年本学は向田・小原が卒業し、個人種目も、リレーを組むのも大変になりそうですが日下・大久保の1年コンビが今回も活躍しており、まだ見ぬ来年の新生に期待したいところです。いずれにせよ、4大戦の棚ボタ勝利と違い、勝ちにいつて勝った男子も、ギリギリの戦力で大健闘した女子も本当に良くやったと思いますし、きれいごとではなく、マネージャー、今日は応援に回った部員全員の思いやサポートがあればこそこの勝利でした。さて、秋はエースクラスはチャンピオンシップ、対校戦は京大戦がイベントです。合宿を経て一段階高いレベルで臨みたいと思います。今日も関東インカレの標準を新たに突破した選手が数名おり、京大戦を意識せずに上を目指したいところですが、京大男子は目の色を変えて臨んでくると思いますし、6人6点制の中では、今のままでは厳しい戦いになるのは避けられません。穴種目の補強など、気を引き締めたいと思います。暑い中、遠路声援に駆け付けてくださいましたOB・OGの皆様には、ご挨拶もできず失礼いたしました。書面で御礼申し上げます。今後もご支援・ご声援よろしく願い申し上げます。

### 1.2 主将の言葉

主将 竹内 昌男

勝因は団結力と貪欲さ。この2点に尽きると思います。暑いスタンドで応援してくれる部員たちのために選手が、暑いグラウンドで死力を尽くす選手のために部員たちが、各々自分たちの仲間を信じ、そしてその期待に応えるというチームの中の好循環が今回

の勝利を呼び込んだのだと私は感じております。これが勝因の1つ、団結力です。また、事前ランキングにおいて、点数を獲得できるかどうかという位置にあった選手たちが、1点でも多く、1つでも上の順位へと貪欲に結果を求めたということも勝因の1つでした。もう少し具体的に今回の七大戦を振り返ってみますと、我がチームは「取れるところで確実に点数を稼ぎ、取れるか微妙なところで1点でも多く点数を重ねる」という特徴があったと思います。走幅跳では表彰台を独占して一挙15点を獲得、三段跳も1位と2位を取り11点獲得、1500mや5000mでも点数を確実に獲得しました。その一方で、100mや400mHにおいて、事前ランキングを覆して1つでも上位へと滑り込む貪欲さが見られ、点数を積み重ねていくことに成功しました。ここ数年は七大戦において低迷を続けてきただけに、今回の勝利はOB・OGの方々の良いご報告ができたと思います。しかし、勝利というものはそこで終わらせてしまってはならないものです。最も大事なものは、優勝チームとして勝ち続けていかねばならないことです。この勝利に酔いしれることなく、秋シーズンに向けて、王者としての相応しい力を保ち続けるべく更なる鍛錬に勤しみたいと思います。今回はご声援、まことにありがとうございました。

### 1.3 女子主将の言葉

女子主将 向田 恵

今年の七大戦は滋賀県皇子山陸上競技場にて炎天下の下行われました。女子は正選手5人という少人数で、他大学と対等に戦えるのか正直不安でした。しかし、男子が朝から大変好調だったのに便乗して、女子も100と400で小原が自己ベストを出してどちらも3位、800で日下が1年生ながらも自己ベストを3秒以上縮めるすばらしい走りをして4位入賞、3000では向田が2位、最後の4継でもこのメンバーでの最高記録を出して4位に入り、トラック全種目での入賞を果たしました。残念ながらフィールド種目では得点を取ることができず総合は4位に終わりましたが、メンバー全員が実力以上の力を出しきることができたと思いますし、私としては大変満足しています。これで今年度の前半のシーズンは終わりましたが、秋の一橋、京大戦に向けてまた気持ちを引き締めて頑張っていこうと思います。最後に個人的な感想になりますが、今回の大会では部員のみなさんの応援が大変力になりました。わざわざ応援に駆け

つけてくださったOBの方々、真っ黒に日焼けするまで必死に応援してくれた部員のみなさん、本当にありがとうございました。

### 1.4 試合経過

#### トラック

##### 10:00 男子3000mSC 決勝

岡田(4年)、石原(3年)の出場。30を越える暑さの中スローペースでレースはスタートし、岡田、石原とも大集団の中ほどにつけた。1000m手前で8分台の記録を持つ下瀬(九大)が飛び出すと集団は縦長になり、石原は3'10、岡田は3'12で1000mを通過。石原は集団を利用して徐々に前との差をつめ、岡田も第2集団に食らいつき、先頭集団4人の中に石原、続く5人の集団の中に岡田で2000mを通過した。それまで集団で力を溜めていた石原はラスト一周を前に勝負に出るが、下瀬とは飛越の差で離される。ホームストレートで北大の選手に詰め寄られるも逃げ切り9'18"37の2位でゴール。岡田もラストで追い上げを見せて1人をかわし、9'34"90の7位でゴールした。七大最初の対校種目で、2人とも自己ベストを更新する見事な走りで見事な走りを見せ、チームに勢いを与えた。

##### 10:20 女子400m 予選

1組5レーンに小原(4年)の出場。2組3着+2で3着までに入れば自動的に決勝進出が決まるこのレース、スタートから積極的に飛ばして、最終コーナーを抜けた時点で先頭に出る。後々のための体力温存ということもあり、後ろとの差を確認しつつ徐々にスピードを落としながら62"79の1着でゴール。危なげなく決勝進出を決めた。

##### 10:30 男子400m 予選

1組7レーンに川村(1年)の出場。持ちタイムでは他の選手にかなわないが前半から飛ばしていく積極的なレースを見せる。しかし200m過ぎあたりから徐々に抜かれ、スピードも落ちていき苦しくなっていく。ラスト100mでは置いていかれてしまったが最後まで決してあきらめることなく55"07の7着でゴール。前回に引き続き今回も自己ベストの更新をした。現在1年であり今

後の成長がまだまだ望める選手である。2組3レーンに深澤(2年)の出場。好タイムを出して、決勝そしてマイルにつなげたいところである。2着入りを視野に入れ、前半は様子を見ながらの展開。250m過ぎからスパートをかけ前を行く選手を追い込むが50"78の5着でゴール。1着から5着までが50秒台という拮抗したレースであり、あと一步で決勝に届かなかった。3組8レーンに梶岡(2年)の出場。梶岡も決勝進出が十分に可能な力を持っている。前半から中盤にかけて互角のレース展開。しかしラストの100mで遅れをとり苦しい走りとなって来る。そして51"44の5着でゴール。持ち味のスピードに加え、走りこみにより後半の粘りが生まれれば十分に決勝で勝負できるようになるであろう。

#### 10:55 男子110mH 予選

1組目6レーンに梅沢(4年)の出場。スタートで出遅れるも安定したハードリングで7レーンと並走。しかし最終ハードルの着地でバランスを崩してしまう。15"92の5着でゴール、風は-0.3mだった。2組目7レーンに堀内(2年)の出場。スタートからスピードが伸びず遅れをとる。9台目を倒してしまいバランスを崩す。19"41の5着でゴール、風はなかった。3組目5レーンに尾崎(2年)の出場。序盤から先頭に飛び出すとまわりと差をつけ15"04の1着でゴール。決勝進出を決めた。風は-0.1mだった。

#### 11:20 女子100m 予選

1組2レーンに大久保(1年)の出場。スタート時は全体の中で半分よりやや前ほどで、決勝進出の希望も見えたが、後半、後ろから迫る選手に抜かされ、徐々に順位を落としていき、最終的に13"85の5着でゴール。このとき風は+0.4mであった。今回は残念な結果となってしまったが、まだ1年生であるから、この夏に実力をつけ、来年以降は数少ない女子の主力選手となることが期待される。2組5レーンに小原(4年)の出場。女子短距離の主力選手として得点が期待される。まずまずのスタートで後続に差をつけるが、同時にトップからは引き離されていった。そのまま13"01の2着でゴール。このときの風は+0.5m。順調に決勝へ

駒を進めた。

#### 11:25 男子100m 予選

1組5レーンに石田(1年)の出場。まだ1年ではあるが、練習にも熱心で安定した実力のある選手だ。まずは決勝進出を期待したい。スタートでは全体の中でやや前の位置。上手くいけば決勝進出も十分狙える位置であった。しかし後半、徐々に後方から差をつめられ、最終的に11"19の5着でゴール。この時、風はなかった。今回こそ残念な結果であったが、渡辺と並び入学時から力のある選手なので、この夏の練習を乗り越えて、秋には確実に得点をとれる選手になってほしい。2組7レーンに斉藤(2年)の出場。スタートでやや出遅れたが、そこからの伸びがよかった。他の選手をどんどん抜いて、ラスト20mで2番手との差を縮め、ほとんど変わらぬタイミングでゴール。しかし結果は残念にも11"23の3着であった。このとき、+0.4mであった。3組4レーンに渡辺(1年)の出場。予選にも関わらず、トップは10秒台を記録するという、レベルの高いレースとなった。渡辺は10"93の3着でゴール。このとき、風は+0.5m。惜しくも2位には入れなかったが、プラスで拾われて決勝へ進む事となった。

#### 11:50 男子1500m 決勝

高得点の獲得が期待される種目。スタートラインに揃う選手たち。スタンドに流れる緊張感を号砲が破った。冷静な滑り出しを見せた、腰番号5番の斎藤(3年)。腰番号21番の松本(3年)は狙いすましたように先頭を伺う位置に付ける。腰番号3番の黒澤(4年)は後方からの発進、団子スタートの中で若干の接触があり、位置取りに苦労する。レースがスローペースで展開する中で東大の3選手はいずれも徐々に前へ詰めていく。他校の選手に前を引っ張らせつつ、無理なく距離をこなす。先頭が前半800mを2'11とスローに消化しただけに、後半のペースアップが勝負の要諦となるのは明らかだった。900m付近で東大の3名を含む8名ほどの集団と、そこからの脱落者とがはっきりしてきた。松本を5番手あたりに、そしてこれに続いて斎藤、黒澤の順で迎えるラスト1周。優勝をかけてまず松本が、そし

て斉藤がギアチェンジ。先頭集団の選手たちは解き放たれたように加速する。激しい速度変化の中であって、動きに固さのみられた黒澤は苦しい展開。勝負に出た松本は、最終コーナー中腹でついに先頭にたち、後続の追従を許すまいと、猛然と最後の直線へ駆け込む。しかし唯一背後に張り付く、下馬評で1位の岡本(京大)にかわされて、意地で食い下がるものの4'00"41、2位でフィニッシュした。優勝は逃したが、専門外の中距離種目で見事の一言に尽きるレースであった。また、しっかりスパートをかけて順位を着実にあげる、会心の走りでこれに続いた斉藤が3位に。記録は4'02"35で念願の表彰台を獲得した。黒澤は先行する4番手集団をとらえきれず、8位、4'04"65であり、おしくも点数獲得はならなかった。予定通りとはならなかったがそれでも大量9点を加え、チームにより流れを与える結果となった。

#### 12:25 男子 110mH 決勝

3レーンに尾崎(2年)の出場。予選での好調な走りは勝利を予感させた。好調なスタートで4レーン(京大)と先頭争い。しかし中盤、4レーンの水谷(京大)が先頭に抜け出す。後半6、7レーンが追い上げ追いつかれそうになるものの、そのまま逃げ切り15"07の2位でゴール。風は-1.8mだった。このレースでは1位の水谷(京大)が14"74の大会新記録を出し、ハイスピードで見たえのあるレースだった。

#### 12:40 女子 100m 決勝

3レーンに小原(4年)の出場。予選の順位から言っても、上位に入って得点を取りたいところ。スタート直後は2位か3位かという位置で、何とか2位を狙いたい。しかし、中盤から後半の伸びがなく、2位に迫る事が出来ずに、逆に後ろからの選手に徐々に追い上げられる。3位争いに僅差で勝利し、12"99の3位でゴールした。この時の風は+0.7mであった。日頃の地道な練習の成果が出たと言える。

#### 12:50 男子 100m 決勝

8レーンに渡辺(1年)の出場。スタートから前半は全体から見てやや後ろ気味の位置、6位に入賞しての得点は難しいかと思われ

たが、後半、徐々にスピードに乗って、前との差をどんどん縮め始める。そのまま追い抜き、最終的に11"10の5位でゴール。得点に繋がる走りとなった。このときの風は-0.6m。今回、男子100mの対校選手が1,2年だけで構成されている事からも分かるように、現在の短距離は来年、再来年にも十分希望がある状態である。渡辺や、今回は予選で敗退となった2人も含め、次はさらに上位、高得点を狙えるだろう。

#### 13:00 女子 800m 決勝

日下(1年)の出場。向田(4年)はより得点が見込める3000mに専念するため、この種目は回避した。レースは出場者11人の一発決勝でオープンコースでのスタートとなった。持ち記録で頭一つ抜ける北大の選手が引っ張る展開で100mを15秒で通過。早くも縦一列となり、日下は4番手につける。400mで集団のペースが上がると、日下はついていけず少し遅れるが完全には離されず、逆に3位の選手とデッドヒートをしながら前の選手との差を詰めていった。力及ばず順位をあげることはできなかったが、目標としていた自己ベストを大きく更新する2'21"17でフィニッシュした。順位は4位で、見事に1点を獲得した。格上相手に積極的なレースを見せ、新たな女子部エースの誕生を印象づける結果となった。

#### 13:05 男子 800m 予選

1組4レーンに黒澤(4年)の出場。やや抑え気味のスタートで、集団の後方、7番手につける。そのままの位置で1周目のホームストレートに入るが、うまくポジションが上げられず、やや前と離れてしまう。そのままの位置で400mを通過。残り500mから加速した黒澤は、必死に集団のペースアップに食らいつくが、順位は上げられない。しかし、最後の直線に入ると黒澤はそこから猛スパートを見せ、一気に4人を抜き去る。だが、惜しくも2番手には届かず、結局1'58"92の3着でゴール。無念の予選落ちとなった。2組目5レーンに新井(4年)の出場。新井はゆったりとしたスタートから最後尾につけ、落ち着いてレースを進める。そのまま前の集団を見ながら1周目のホームストレートに入ると、集団の外側に

出て一気に順位を上げ、400mを先頭で通過。バックストレートに入り後ろを更に引き離しにかかるが、名古屋大の選手が新井に追いつく。そこから競り合いになるかと思われたが、新井は落ち着いた走りを見せる。2番手の選手と共に最後の直線ではスピードを緩めなが1'57"06の1着でゴール。危なげない予選通過となった。3組目6レーンに小澤(3年)の出場。小澤は好スタートから先頭に立ち積極的にレースを進める。そのまま300m付近まで先頭を引っ張るがホームストレートで前を譲り、400mを3番手で通過。しかし、鐘が鳴ってペースが上がると、小澤は前を塞がれ500m付近では7番手まで下がってしまう。しかし、小澤はそこから再び加速し、ラスト150mで4番手まで順位を上げる。さらに最後の直線では2人を抜き、1'58"46の2着でゴール。七大戦初の800m出場で、嬉しい決勝進出となった。

### 13:30 男子 400mH 予選

1組4レーンに伊勢田(4年)の出場。今大会400mHは七大戦史上最速の試合となると予想されていたため気の抜けない状況であった。2レーンの阪大福間が速かったが、それに続く勢いで伊勢田も前半から飛ばして追いかけて、第4コーナーを抜けたところで単独2位となる。後半ハードリングが乱れるも持ち前の走力で走りきり、56"27の2着でゴール。関東インカレB標準56"64も突破し決勝進出を決めた。2組7レーンに門脇(2年)の出場。前半から攻めるレースを試みるもそれが力みとなって出てしまい、3台目のハードルでバランスを崩してしまい苦しい展開になる。その後もじわじわと先頭から離されるが、最後に1人をおかわし60"14の5着でゴール。決勝進出はならなかった。3組2レーンに坂田(4年)の出場。1台目のハードルで少し詰まり気味となってしまい、うまくスピードに乗れない苦しい状況となる。序盤から先頭に離されてしまい、後半もハードリングが安定せず61"29の6着でゴール。決勝進出はならなかった。

### 13:55 男子 200m 予選

1組8レーンに三好(4年)の出場。好スター

トするもスピードに乗り切れず、50mすぎで内側の選手に追いつかれてしまう。ラスト100mではスピードの切り替えがうまくいかず23"54の6着でゴール。このときの風は+0.1mであった。最大スピードの向上が今後の課題となるであろう。2組7レーンに今村(3年)の出場。スタートで無難に飛び出し後半の100mでは力走りでスピードを落とすことなく23"15の3着でゴール。このときの風は+0.2m。2着に食い込めば決勝進出ただけに非常に惜しい結果であった。3組6レーンに瀧山(4年)の出場。一度フライングがあったが集中力を切らすことのない無難なスタート。内側の4、5レーンの選手がいい加速を見せ、瀧山はコーナーで抜かれるが後半も力むことなく22"66の4着でゴール。このときの風は+0.7m。このタイムは他の組であれば2着に入ることのできた好記録であり、レベルの高い組であったことが悔やまれる。

### 14:30 女子 3000m 決勝

向田(4年)、清水(4年)の出場。非常に厳しい日差しの中でのスタートとなった。名古屋大の小山がただ一人のサブテンランナーであり、実力は抜けている感がある。その中で向田は表彰台、清水は得点が期待される。号砲とともに、小山が飛び出し、ハイペースな展開になる。集団は一気に縦長になり、向田は2番手集団の真ん中、清水はそのやや後ろに北海道大の選手と取り残されてしまう。その後、ペース自体はやや落ち着きを見せ、展開に変化はないまま1000mへ。向田は3'28、清水は3'48での通過となる。2000m地点の付近で向田を含む4人の2番手集団のペースが上がリ、向田は一旦集団に離されかける。だが、ここはきちんと対応し、表彰台への期待が膨らむ。一方で、清水は北海道大の選手を突き放したものの、前の選手との距離つめられず、1人旅になってしまう。ラスト800mを過ぎたところで、向田は集団から遅れだす苦しい展開になってしまう。やや前と距離のある5番手でラスト1周の鐘を聞く。しかし、ここからが向田の真骨頂であった。向田は一気にペースを上げ、ロングスパートをかける。みるみる前方との距離をつめ、最終ストレート

までに3人を牛蒡抜きし、10'30"40で2位を獲得。4年間の集大成とも言える最高の走りで、女子主将の名に恥じない活躍を見せた。清水は暑さの影響もあり、1600m過ぎから完全に足が止まる厳しい展開となり、粘りを見せるも12'39"37で位となった。結果として、この種目では3点を獲得した。

#### 14:50 男子4×100mR 決勝

3レーンに福田(2年)-渡辺(1年)-斉藤(2年)-尾崎(2年)の走順で出場。今季ランキングでは1位であったが、他大も勢いがあり、決して予断の許されない状況であった。1走福田は序盤から飛ばし、周囲の選手に引けを取らない走りを見せる。2走渡辺はスムーズに加速しすばらしい走りを見せ、3走斉藤にバトンをつなぐ。しばらく調子のあがらなかった斉藤であったがコーナーをスピードに乗りながらまわり、快走を見せる。4走尾崎にバトンが渡ったとき、名大がひとつで他大は固まっていた。尾崎は名大に詰め寄るも京大、東北大、阪大に抜かれ、一時は5位にまで落ちる。しかし後半伸びを見せ、倒れ込みながらゴールを切り、42"38で阪大と同タイムながら競り勝ち3位になった。最後の尾崎の倒れ込む姿に象徴されるように勝利への信念がこの結果をもたらしたのである。

#### 15:10 男子400mH 決勝

7レーンに伊勢田(4年)の出場。伊勢田は入部以来4年連続で決勝進出を果たすも過去3年8位であったため、今年こそは6位以内に入り得点を取ろうと意気込む。序盤他大の3人が飛ばし先頭に行く展開の中、予選同様前半から飛ばし先頭に食らいつく。しかしスタミナが切れてきたためか、200mで京大の白方に抜かれると第4コーナーを出たところで後退してしまう。しかし最後に気力を振り絞って再び上がり56"27の5位でゴール。非常に厳しい集団の中、ついに念願の得点を得ることができた。

#### 15:20 女子400m 決勝

5レーンに小原(4年)の出場。100mの予選・決勝を含め本日4本目のレース。暑さからこれまでの体力消費も激しいと思われるが、スタートと同時に積極的な走りを見せ、バックストレートではアウトレーンの2

人を抜く快走。その後粘るモインレーンの選手の追い上げもあり、コーナー出口では4番手。しかしラストスパートで前を行っていた1人をかわし、61"24の3位でフィニッシュ。100mに続き本日2つ目の表彰台。暑さとハードスケジュールという厳しい条件の中、自己ベストにあとわずかと迫る走りで、4年生としてさすがの調整力を見せた。

#### 15:30 男子800m 決勝

2レーンに小澤(3年)、4レーンに新井(4年)の出場。新井は積極的なスタートを見せ先頭に立ち、小澤は落ち着いて4番手あたりにつける。新井はそのまま2番手以下をやや離して先頭を引っ張る。小澤は200mで5番手、ホームストレートでは6番手に順位を下げてしまうが、しっかり集団を見ながらレースを進める。淡々とレースは流れ、400mは新井が先頭で57秒で通過。そこから新井はペースを上げ、2番手以下を引き離しにかかる。バックストレートでは8人の選手がほぼ等間隔に並ぶ縦長の展開となり、小澤は其中で6番手につけ、必死に前を追う。逃げ切りを狙った新井であったが、残り200mで2番手にいた京大の岡本が満を持して先頭に立つ。新井は必死に喰らい付くが、ホームストレートに入ると離され、さらには追いついて来た名古屋大の選手との競り合いとなる。懸命な走りを見せた新井であったが、僅かに競り負け、1'56"75の3位でゴール。6番手で最後の直線に入った小澤は、そこからひとつ順位を上げ、1'59"54の5位でゴール。優勝を狙った新井にとっては悔しい結果となったが、小澤が初めての七大会決勝で5位入賞し、チームとしても合計6点を獲得。2人が表彰台に乗った1500mと合わせ、中距離種目で15点を稼ぎ、優勝への大きな原動力となった。

#### 15:50 男子5000m 決勝

片岡(4年)、石原(3年)、松本(3年)の出場。戦前より大量得点が期待される種目であったが、京大との対校優勝争いは熾烈を極め終盤に出番が訪れたこの3名に部員全員の想いが結集した。気温、湿度ともに高く当然記録より勝負のレース展開となる。序盤

はスローペースの大集団で進行し、松本はその前寄り、石原、片岡はやや後方でレースを進めた。1000mを3'09、2000mを6'14、3000mを9'22で通過した後、集団の人数は一気に減り、ここで片岡もペースを落としてしまった。石原、松本は5名にまで絞られた先頭集団に最後までくらくつく。ラストの直線で、松本は持ち前の見事なスパートを決め勝利を確信。渾身のガッツポーズとともに15'26"34の1位でゴール。石原は先頭集団から最初に遅れ苦しい展開であったが、応援を力に、脅威の粘りで二人をかわし15'30"78の3位でゴールした。片岡は後半も持ち直すことができず、16'36"34の16位でゴールした。この種目で東大は対校得点10点を獲得し、優勝を決定的なものとした。

#### 16:20 女子4×100mR 決勝

2レーンに大久保(1年)-小原(4年)-日下(1年)-向田(4年)の走順で出場。本大会3連覇中の名大が優位であったが、他大学の力が拮抗し接戦が予想されていた。1走の大久保はまずまずのスタートをきり、アウトレーンの九大を抜く走りを見せ、2走の小原にバトンを渡す。こここのところ調子を上げ続けている小原は貫禄の走りを見せ、バックストレートで阪大を捕らえる。専門の800mでベストを出した3走日下は後ろの阪大に差を詰められるも快走し、3位でバトンを渡す。4走向田は暑い中の3000mとの掛け持ちからか1つ順位を落としてしまうも粘るに粘って53"34で4位となった。今回はバトンの練習が積めたことなどで四大戦よりもタイムを縮めることができ、徐々に息が合い始めてきた。秋のシーズンへ向け、まだまだ成長が期待される。

#### 16:30 男子4×400mR 決勝

5レーンに深澤(2年)-梶岡(2年)-伊勢田(4年)-相川(4年)の出場。トラック最終種目、応援にも一層の熱が入る。1走の深澤は相手に引けをとらない安定した好調な走りを見せ、先頭とほとんど差をつけずに2走につなぐ。続く2走の梶岡は前半から積極的な走りを見せトップに出て200mを通過、会場を沸かせる。しかし後半ペースの変化についていけず5番手に落ちバトンをつな

ぐ。3走の伊勢田、前半は前を追う展開で徐々に差をつめていく。200m付近で4番手を捉えると前を次々と抜き2番手まで浮上、バトンをつなぐ。最終走者の相川はスピードに乗り切れず後続チームに捉えられ序盤6番手に。しかし後半会心のスパートを見せゴール直前5番手を捉え、3'21"09の5位でゴール。うれしいシーズンベストを出した。どの選手も最後まで粘り強い走りをしており最終種目にふさわしいレースだった。

## フィールド

#### 10:00 男子棒高跳 決勝

持永(4年)、木村(3年)、大谷(2年)の出場。3m60の練習跳躍でよい動きをみせた木村は3m00から試技を開始。この高さで続く3m20は一跳目でクリア。高さは3m40へ。今回は振り上げ以降の動作の上達が目立ったが、逆にそれを意識するからか力んで入っていきえずに高さがでないまま次の動作に移ろうとしている感もあった。そのためか、この高さ三度とも失敗。四大戦好調であった持永は3m60から試技を開始。しかし、助走から走れていない、といった感じの跳躍が続きこの高さ三度とも失敗。大谷は3m80から試技を始める。一跳目はアップライトがあわず失敗したものの、二跳目には余裕をもってクリア。続く4m00も二跳目で成功。しかし4m20は三度とも失敗。大谷は全般的に重い、感じを受けた。結果は、持永が記録なし、木村が3m20で7位、大谷が4m00で2位であった。

#### 10:00 男子円盤投決勝

合田(4年)、田上(4年)、小林(4年)の出場。合田は、ランキングどおりに、トップでベストエイトに進出する。ただ、緊張のためか、記録は35m81と低調であった。後半は緊張がとけたのか、38m55まで記録をのばし、1位で競技を終えた。田上は、ターンの流れがよく、コンディションも好調であった。そのためか、1投目に自己ベストとなる28m09を投げる。しかし、その後は、わずかにタイミングがあわず、記録を伸ばすことはできなかった。最終的には、11位で競技を終えた。小林は1投目から、

投げる体勢を作り力を発揮する、良い投擲を見せる。3投目にはさらに記録をのばし、自己記録を更新した。結果は27m92の12位であった。結局3人がともに自己記録を更新し、投擲種目は幸先の良いスタートとなった。

#### 11:30 男子走幅跳 決勝

竹内(4年)、尾崎(2年)、武安(2年)の出場。この種目では大量得点が期待されていた。竹内は安定した強さながらも一発がでずに5跳目終わった時点で2位。しかしその後の6跳目に手拍子の中、素晴らしい跳躍で7m37を記録し優勝した。尾崎は110mH予選直後の1跳目、2跳目でファール。3跳目は踏切板の手前から踏み切りながらも7m06を跳びトップにたつ。最後は竹内に抜かれて2位。武安は今回、後半一気にスピードを上げる助走をしていた。最初は動きに精彩を欠くも、だんだんと動きがよくなっていき7m01で3位。結果出場した3人全員が7mを越える跳躍を見せ表彰台を独占。東大の総合優勝に大きく貢献した。

#### 13:30 女子走幅跳 決勝

大久保(1年)の出場。1跳目に自己ベストに近い4m28を跳び幸先のいいスタートを切る。その後5跳目に4m32を跳び7位となった。今回は残念ながら得点はならなかったが、四大戦から連続して自己記録を更新しているだけに今後が期待できる。

#### 13:00 男子走高跳 決勝

持永(4年)、倉員(3年)、小福田(2年)の出場。小福田は長引く足首の故障に苦しまされながらの出場。慎重に1m60から跳び始めるが、練習不足が祟り2回続けて失敗してしまう。足首の痛みもでてきてしまうが、集中し直した3跳目、甦ったようにきれいにクリアする。その後、勝負をかけ1m70に挑戦するが、失敗に終わった。倉員は専門外種目ながら、対校得点のチャンス有りと踏んでの出場。1m70を無難にクリアするも、1m75を2回失敗して後がなくなる。残りの出場者数から考えて、3跳目で1m75を跳んでも得点の可能性は広がらないと判断し、この高さをパスして1m80に望みを託す。一発勝負となったこの試技で倉員は今までで最高の跳躍をみせるも、僅かにバー

を擦り、失敗。惜しくも得点圏外だった。持永は1m70を無難に成功する。勢いに乗って、バーを揺らしながらも1m75を一発でクリアする。1m80は越えられなかったものの、この試技数差が決め手となり同率5位で貴重な1.5点を確保した。

#### 11:30 男子砲丸投 決勝

合田(4年)、持永(4年)、小林(3年)の出場。日が高く昇り、熱気が取り巻く中で競技が開始された。小林は1投目からうまくつながらず、修正に苦しむ。3投目までに満足いく投げができず、2投目の10m27を記録として9位となった。持永は棒高跳との競技場所の往復で、なかなか合わせられない。1投目をファールし2投目は間に合わずパス。3投目に臨むものの、突っ込んでしまいファール、記録無しで終わる。合田は2種目目でありながらしっかりと砲丸を押しきり、記録を伸ばす。3投目に11m18を投げたあとは疲れがたまってきたのか、力が乗らない。そのまま最後まで伸ばすことができず、5位で競技を終えた。

#### 14:00 女子砲丸投 決勝

河本(4年)、清水(4年)の出場。本来マネージャーの河本は選手不足のため急遽出場となった。それでも2投目に5m20を投げ、惜しくもベスト8には残れなかった。清水は国立戦以来取り組んできた砲丸投での飛躍が期待されたが、1投目に5m04を投げるにとどまり、3投目は3000m出場のためパスした。残念ながらベスト8には入れなかったが、フィールドとは全く別のパートの河本、清水の奮闘をたたえたい。

#### 13:00 男子やり投 決勝

関原(3年)、葉梨(2年)、北川(2年)の出場。比叡山延暦寺が見下ろす競技場で試合は行われた。葉梨は決勝進出を狙ったが38m31で惜しくも予選落ち。決勝に進んだ二人は順調に記録を伸ばしていった。結果北川が53m33で2位。関原が46m83で8位となった。しっかりと5点手に入れ、京大に差をつけた。

#### 15:00 男子ハンマー投 決勝

合田(4年)、庄司(3年)、寺島(1年)の出場。真夏の暑さのピークが過ぎたころ、予定から35分遅れで試合は始まった。合田

は円盤で優勝、その円盤と砲丸でベストを更新し、絶好調でハンマーに向かった。合田は、先日の練習時に指摘されたこと、すなわち、きちんと軸足に体重を乗せて回することを意識していた。そのためもあってか、すでに2種目に出場したとは思えないような、ベスト近くのパフォーマンスを見せる。3投目には33m75の記録を残すも、上位の厚い壁に阻まれベスト8に残ることはできなかった。庄司は、先日の選手決定の校内選考会の際に、不本意にも円盤の出場枠を逃してしまった。そのため、ハンマーに全てを賭けており、結果を残さないわけには行かなかった。その庄司は1投目からターンが安定し、いきなりベスト近くまで投げる。その後、3投目まで少しずつ距離をのばしていく。その3投目では、最後に振り切りがばっちり決まり、38m99と、ベストを約1mも更新して5番手に着けた。寺島はハンマー初出場。前夜から緊張の色が隠せず、1投目をファールしてしまう。しかし、2投目には、それを振り切る目の覚めるような投擲を見せる。25m15。いまや38mを投げる庄司の初試合よりも8m近く上回る記録である。しかし、上位には遠く及ばず、ベスト8漏れだった。寺島は陸上初心者で、フォームに癖がなく今後の大幅な伸びを期待したい。各校の選手が、各々3投を投げおわって、8番手が36mを超えると、近年に無いハイレベルかつ混戦の試合になった。この団子状態の後半戦に東大で唯一残った庄司は、40mラインを狙って投擲するが、2、3回転目の加速が悪く、なかなか記録が伸びない。6投目はいい投げだったが、3投目の記録には及ばなかった。結局、1つ順位を落として6位だった。庄司がなんとか1点取ったことにより、投擲は4種目全てにおいて得点を獲得した。

**15:20 男子三段跳 決勝**

佐野(4年)、倉員(3年)、武安(2年)の出場。午後最後の跳躍種目、1時間遅れて試技が開始された。佐野は関東インカレ以来調子が落ち気味であったが自身最後の七大戦、活躍が期待された。しかし全体的に動きにキレを欠いた。持ち前の大きいホップで攻めの姿勢を見せるが、ジャンプで伸び

ず、13m 台中盤に記録が集中してしまった。結果、3跳目の13m75で8位となった。倉員は4大戦から上り調子、体をさらに絞ってキレの良い動きを見せてくれた。1本目からスピードに乗った助走で14m42の自己ベスト。2本目から5本目は力が入りステップでつぶれた。6跳目は手拍子を求め、テンポの良い助走からしっかり合わせ14m36、高いレベルで安定していた。結果1跳目の14m42で2位となった。武安は午前の幅跳びで助走の良い感覚を掴んでいた。1跳目ゆっくりした助走からスムーズにスピードを上げ、着地でバランスが崩れたものの自己記録を52cm更新する14m74の大ジャンプ。スタンドを大いに沸かせてくれた。2跳目でも14m59と高いレベルで安定感を見せた。ここがかかとのマメがつぶれたため6跳目までパス。6跳目は疲れが出たものの14m06、結果1跳目の14m74で1位であった。

**1.5 試合結果**

第57回国立七大学対校陸上競技大会  
第17回国立七大学対校女子陸上競技大会  
於 滋賀県皇子山陸上競技場 (H19.7.30)

男子 100m 決勝 (-0.6)			
1	江馬 彰俊	北海道大	10.83
2	石田 真大	京都大	11.01
3	八木 洋光	東北大	11.07
4	白方 朗史	京都大	11.09
5	渡辺 裕太	東京大	11.10
6	服部 陽平	大阪大	11.32

男子 100m 予選			
1組 (± 0.0)			
5	石田 貴巳	東京大	11.19
2組 (+0.4)			
3	斉藤 拓海	東京大	11"23
3組 (+0.5)			
3	渡辺 裕太	東大	10"93

男子 200m 決勝			
1	江馬 彰俊	北海道大	21.92

2	石田 真大	京都大	21.95
3	八木 洋光	東北大	22.08
4	瀧口 達也	大阪大	22.35
5	内橋 健太	九州大	22.50
6	大野 敦史	京都大	22.52

## 男子 200m 予選

1組 (+0.1)			
6	三好 信哉	東京大	23.54
2組 (+0.2)			
3	今村 岳	東京大	23"15
3組 (+0.7)			
4	瀧山 健	東大	22"66

## 男子 400m 決勝

1	岡村 健太郎	大阪大	49.62
2	大場 創介	名古屋大	49.69
3	鈴木 義教	東北大	49.98
4	藤崎 淳	京都大	50.07
5	牧 祐輝	名古屋大	50.18
6	小沼 弘幸	大阪大	50.48

## 男子 400m 予選

1組			
7	川村 知正	東大	55.07
2組			
5	深澤 眞楠	東大	50.78
3組			
5	梶岡 利之	東大	51.44

## 男子 800m 決勝

1	岡本 英也	京都大	1'54"79
2	向山 正晃	名古屋大	1'55"66
3	新井 邦生	東京大	1'56"75
4	岩田 翔也	名古屋大	1'57"73
5	小澤 聡	東京大	1'59"54
6	吉岡 朋啓	名古屋大	1'59"98

## 男子 800m 予選

1組			
3	黒澤 徹也	東京大	1'58"92
2組			
1	新井 邦生	東京大	1'57"06
3組			

2	小澤 聡	東京大	1'58"46
---	------	-----	---------

## 男子 1500m 決勝

1	岡本 英也	京都大	4'00"18
2	松本 翔	東北大	4'00"91
3	斉藤 俊	東京大	4'02"35
4	久保 孝幸	名古屋大	4'03"33
5	古川 良	名古屋大	4'03"71
6	笹野 佳彦	東北大	4'03"74
8	黒澤 徹也	東京大	4'04"65

## 男子 5000m 決勝

1	松本 翔	東京大	15'26"34
2	本多 将浩	名古屋大	15'28"95
3	石原 宏尚	東京大	15'30"78
4	齋藤 純	東北大	15'31"40
5	山崎 佑太郎	北海道大	15'34"90
6	小林 義氣	北海道大	15'45"87
16	片岡 哲也	東京大	16'36"34

## 男子 110mH 決勝 (-1.8)

1	水谷 太郎	京都大	14.74 NGR
2	尾崎 翔	東京大	15.07
3	内山 善仁	北海道大	15.09
4	萩澤 佑樹	京都大	15.11
5	宮川 寛亮	北海道大	15.20
6	溝端 竜也	大阪大	15.59

## 男子 110mH 予選

1組 (-0.3)			
5	梅沢 啓	東京大	15.92
2組 (± 0.0)			
5	堀内 敦史	東京大	19.41
3組 (± 0.0)			
1	尾崎 翔	東京大	15.04

## 男子 400mH 決勝

1	内山 善仁	北海道大	52.32
2	白方 朗史	京都大	52.47
3	福間 俊吾	大阪大	54.09
4	牧 祐輝	名古屋大	55.05
5	伊勢田 明弘	東京大	56.27
6	宮下 昌人	北海道大	56.32

## 男子 400mH 予選

1 組
2 <u>伊勢田 明弘</u> 東京大 56.27
2 組
5 <u>門脇 啓太</u> 東京大 60.14
3 組
6 <u>坂田 祐輔</u> 東京大 61.29

## 男子 3000mSC 決勝

1 下瀬 幸男 九州大 9'16"56
2 石原 宏尚 東京大 9'18"37
3 宮山 和也 北海道大 9'18"52
4 近藤 学宏 京都大 9'20"94
5 松尾 直茂 大阪大 9'29"11
6 北村 仁 名古屋大 9'31"66
7 <u>岡田 良平</u> 東京大 9'34"90

## 男子 4 × 100mR 決勝

1 京都大 42"23
2 東北大 42"29
3 <u>東京大</u> 42"38 (福田-渡辺-斉藤-尾崎)
4 大阪大 42"38
5 北海道大 42"45
6 名古屋大 43"23

## 男子 4 × 400mR 決勝

1 京都大 3'17"48
2 北海道大 3'20"68
3 大阪大 3'20"72
4 東北大 3'20"94
5 <u>東京大</u> 3'21"09 (深澤-梶岡-伊勢田-相川)
6 名古屋大 3'21"44

## 男子 走高跳 決勝

1 眞鍋 享平 大阪大 2m00
2 岡本 聖司 東北大 1m83
2 堀内 康孝 九州大 1m83
4 宮川 寛亮 北海道大 1m80
5 <u>持永 新</u> 東京大 1m75
5 松久 佳弘 京都大 1m75
7 <u>倉員 智瑛</u> 東京大 1m75
14 <u>小福田 大輔</u> 東京大 1m60

## 男子 棒高跳 決勝

1 白井 孝明 東北大 4m40
2 <u>大谷 真人</u> 東京大 4m00
3 山本 剛史 東北大 3m80
4 三浦 裕介 京都大 3m40
5 西川 祐示 名古屋大 3m40
6 溝端 竜也 大阪大 3m40
7 <u>木村 剛</u> 東京大 3m20
- <u>持永 新</u> 東京大 NR

## 男子 走幅跳 決勝

1 <u>竹内 昌男</u> 東京大 7m37
2 尾崎 翔 東京大 7m06
3 <u>武安 光太郎</u> 東京大 7m01
4 高橋 淳 北海道大 6m87
5 堀内 康孝 北海道大 6m66
6 荻澤 佑樹 京都大 6m62

## 男子 三段跳 決勝

1 <u>武安 光太郎</u> 東京大 14m74
2 <u>倉員 智瑛</u> 東京大 14m42
3 北島 明文 京都大 14m33
4 高橋 淳 北海道大 14m10
5 井口 和之 大阪大 13m99
6 小倉 英輔 九州大 13m97
8 <u>佐野 太郎</u> 東京大 13m75

## 男子 砲丸投 決勝

1 森川 陽介 京都大 12m28
2 上田 雄義 大阪大 12m25
3 今泉 卓真 東北大 12m03
4 菊地 晃一 東北大 11m99
5 <u>合田 隆彦</u> 東京大 11m18
6 荻澤 佑樹 京都大 11m01
10 <u>小林 宗隆</u> 東京大 10m27
- <u>持永 新</u> 東京大 NR

## 男子 円盤投 決勝

1 <u>合田 隆彦</u> 東京大 38m55
2 菊地 晃一 東北大 36m01
3 今泉 卓真 東北大 35m71
4 藤沢 鐘吾 東北大 34m30
5 上田 雄義 大阪大 34m08

6	山村 彰紀	名古屋大	33m54
11	田上 遼	東京大	28m09
12	小林 宗隆	東京大	27m92

## 男子 ハンマー投 決勝

1	田中 聡一	京都大	43m60
2	太田 祐輔	大阪大	42m30
3	今泉 卓真	東北大	42m20
4	岩井 貴司	大阪大	40m43
5	山村 彰紀	名古屋大	33m54
6	庄司 宇	東京大	38m99
10	合田 隆彦	東京大	33m75
13	寺島 孝明	東京大	25m15

## 男子 やり投 決勝

1	上田 雄義	大阪大	59m50
2	北川 昂広	東京大	53m33
3	佐藤 紘一	九州大	51m59
4	瀬戸 史貴	北海道大	51m18
5	西川 祐示	名古屋大	50m95
6	荻澤 佑樹	京都大	50m28
8	関原 孝之	東京大	46m83
15	葉梨 輝	東京大	38m31

## 男子トラック順位

1	京都大	58
2	東京大	45
3	北海道大	39
4	名古屋大	32
5	大阪大	25
6	東北大	24
7	九州大	8

## 男子 フィールド順位

1	東京大	46.5
2	東北大	37.5
3	大阪大	30.5
4	京都大	23.5
5	九州大	11.5
6	北海道大	12
7	名古屋大	6.5

## 男子 総合順位

1	東京大	91.5
---	-----	------

2	京都大	81.5
3	東北大	61.5
4	大阪大	55.5
5	北海道大	51
6	名古屋大	38.5
7	九州大	19.5

## 女子 100m 決勝 (-0.9)

1	安田 理香	名古屋大	12"39
2	早瀬 紗也佳	京都大	12"78
3	小原 明恵	東京大	12"99
4	脇坂 美穂子	東北大	13"02

## 女子 100m 予選

1組 (+0.4)			
5	大久保 渥子	東京大	13.85
2組 (+0.5)			
2	小原 明恵	東京大	13"01

## 女子 400m 決勝

1	只野 奏子	北海道大	60"35
2	金尾 明日美	名古屋大	60"41
3	小原 明恵	東京大	61"24
4	田中 萌子	大阪大	61"85

## 女子 400m 予選

1組			
1	小原 明恵	東京大	62"79
2組			
-	日下 桃子	東京大	DNS

## 女子 800m 決勝

1	只野 奏子	北海道大	2'17"59
2	安川 裕子	名古屋大	2'18"97
3	小山 倫代	名古屋大	2'20"51
4	日下 桃子	東京大	2'21"17
-	向田 恵	東京大	DNS

## 女子 3000m 決勝

1	小山 倫代	名古屋大	10'11"70
2	向田 恵	東京大	10'30"40
3	宮島 裕子	九州大	10'31"68
4	村野 友香梨	九州大	10'33"10
11	清水 里紗	東京大	12'39"37

女子 4 × 100mR 決勝

1	名古屋大	51"21
2	京都大	52"38
3	北海道大	52"97
4	東京大	53"34

(大久保-小原-日下-向田)

女子 走高跳 決勝

1	河合 春菜	京都大	1m51
2	菊地 亜加里	東北大	1m41
2	湯澤 明夏	北海道大	1m41
4	森村 あかね	京都大	1m41
-	小原 明恵	東京大	DNS
-	大久保 渥子	東京大	DNS

女子 走幅跳 決勝

1	早瀬 紗也佳	京都大	5m38
2	安田 理香	名古屋大	5m12
3	菊地 亜加里	東北大	5m02
4	吉川 泰代	大阪大	5m01
7	大久保 渥子	東京大	4m32
-	小原 明恵	東京大	DNS

女子 砲丸投 決勝

1	青山 聡子	九州大	10m13
2	早瀬 紗也佳	京都大	7m91
3	平島 幸	北海道大	7m73
4	藤竹 瑞穂	九州大	7m53
11	河本 和美	東京大	5m20
12	清水 里紗	東京大	5m04

2 2006年度部内5傑 2006.7.30. 現在

男子 100m

1	渡辺 裕太 (1年)	10"93(+0.5)	7.30
2	石田 貴巳 (1年)	11"19(± 0.0)	7.30
3	田中 啓太 (3年)	11"20(+1.9)	5.3
4	斉藤 拓海 (2年)	11"23(+0.4)	7.30
5	尾崎 翔 (2年)	11"24(+0.8)	6.17

男子 200m

1	渡辺 裕太 (1年)	22"16(+1.9)	5.20
2	瀧山 健 (4年)	22"66(+0.7)	7.30
3	今村 岳 (3年)	23"15(+0.2)	7.30
4	三好 信哉 (4年)	23"54(+0.1)	7.30
5	田中 啓太 (3年)	23"87(-0.2)	4.23

男子 400m

1	深澤 眞楠 (2年)	50"72	5.5
1	伊勢田 明弘 (4年)	50"72	5.27
3	今村 岳 (3年)	51"21	4.29
4	梶岡 利之 (2年)	51"40	7.8
5	小澤 聡 (3年)	51"70	7.2

男子 800m

1	新井 邦生 (4年)	1'53"50	5.21
2	黒澤 徹也 (4年)	1'56"66	6.25
3	小澤 聡 (3年)	1'57"48	5.5
4	斉藤 俊 (3年)	1'59"55	4.1
5	野村 圭吾 (1年)	2'00"76	7.8

男子 1500m

1	石原 宏尚 (3年)	3'59"84	4.2
2	黒澤 徹也 (4年)	3'59"87	4.29
3	松本 翔 (3年)	4'00"91	7.30
4	斉藤 俊 (3年)	4'01"56	4.29
5	新井 邦生 (4年)	4'04"33	4.2

男子 5000m

1	松本 翔 (3年)	14'57"51	6.25
2	石原 宏尚 (3年)	15'09"80	6.25
3	片岡 哲朗 (4年)	15'38"27	6.25
4	岡田 良平 (4年)	15'43"46	6.25
5	千島 悠司 (4年)	15'50"51	4.29

男子 110mH

1	尾崎 翔 (2年)	14"90(-0.2)	7.9
2	梅沢 啓 (4年)	15"68(-0.2)	7.9
3	持永 新 (4年)	16"94(+0.7)	6.3
4	堀内 敦史 (2年)	18"37(-0.4)	7.9

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (4年)	56"27	7.30
2	深澤 眞楠 (2年)	59"39	5.27
3	門脇 啓太 (2年)	59"67	7.9
4	坂田 祐輔 (4年)	61"29	7.30
5	小野 剛志 (4年)	63"20	7.23

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (3年)	9'18"37	7.30
2	岡田 良平 (4年)	9'34"90	7.30
3	山崎 大 (4年)	10'07"48	7.8
4	梶井 駿介 (2年)	10'31"04	6.18
5	田中 裕一郎 (2年)	10'33"68	6.18

**男子 走幅跳**

1	尾崎 翔 (2年)	7m42	7.8
2	竹内 昌男 (4年)	7m37	7.30
3	武安 光太郎 (2年)	7m01	4.29
4	相川 啓佑 (4年)	6m76	4.23
5	佐野 太郎 (4年)	6m43	7.8

**男子 三段跳**

1	武安 光太郎 (2年)	14m74	7.30
2	佐野 太郎 (4年)	14m46	5.14
3	倉員 智瑛 (3年)	14m42	7.30
4	深澤 眞楠 (2年)	11m87	4.2

**男子 走高跳**

1	田中 啓 (6年)	1m95	5.20
2	持永 新 (4年)	1m75	4.1
3	倉員 智瑛 (3年)	1m70	7.30
4	小福田 大輔 (2年)	1m60	7.30
5	高橋 昌紀 (2年)	1m50	5.27

**男子 棒高跳**

1	大谷 真人 (2年)	4m20	4.23
2	持永 新 (4年)	3m80	7.8
3	木村 剛 (3年)	3m40	5.3
4	中村 泰輔 (2年)	2m60	7.8

**男子 砲丸投**

1	合田 隆彦 (4年)	11m18	4.23
2	持永 新 (4年)	11m00	4.1
3	小林 宗隆 (3年)	10m60	7.8
4	庄司 宇 (3年)	10m09	5.27
5	田上 遼 (4年)	9m87	4.23

**男子 円盤投**

1	合田 隆彦 (4年)	38m55	7.30
2	庄司 宇 (3年)	30m06	5.27
3	持永 新 (4年)	29m31	6.18
4	田上 遼 (4年)	28m09	7.30
5	小林 宗隆 (3年)	27m92	7.30

**男子 ハンマー投**

1	庄司 宇 (3年)	38m99	7.30
2	合田 隆彦 (4年)	33m75	7.30
3	寺島 孝明 (1年)	25m15	7.30

**男子 やり投**

1	北川 昂広 (2年)	53m33	7.30
2	関原 孝之 (3年)	46m83	7.30
3	石井 仁也 (5年)	45m55	4.2
4	持永 新 (4年)	41m15	4.2
5	葉梨 輝 (2年)	38m31	7.30

**男子 十種競技**

1	持永 新 (4年)	5650点	6.17,18
---	-----------	-------	---------

**女子 100m**

1	小原 明恵 (4年)	12"99(+0.7)	7.30
---	------------	-------------	------

**女子 400m**

1	小原 明恵 (4年)	61"21	7.8
2	日下 桃子 (1年)	64"07	7.8

**女子 800m**

1	日下 桃子 (1年)	2'21"17	7.30
2	向田 恵 (4年)	2'27"01	4.1

**女子 1500m**

1	向田 恵 (4年)	4'53"52	4.29
---	-----------	---------	------

**女子 3000m**

1	向田 恵 (4年)	10'25"92	5.27
2	清水 里紗 (4年)	12'39"37	7.30

**女子 棒高跳**

1	宮崎 彩 (3年)	1m50	4.23
---	-----------	------	------

**女子 走幅跳**

1	大久保 渥子 (1年)	4m32	7.30
2	宮崎 彩 (3年)	4m01	7.8

**女子 砲丸投**

1	宮崎 彩 (3年)	5m23	5.27
2	河本 和美 (4年)	5m20	7.30
3	清水 里紗 (4年)	5m18	7.8

**3 自己記録更新者一覧 2006.7.9 ~ 7.30****7/16 滋賀県選手権 (皇子山)**

3000mSC	鈴木 崇人 (4年)	10'44"61
---------	------------	----------

**7/23 NSSU オープン (日体大)**

400mH	小野 剛志 (4年)	63"20
-------	------------	-------

7/29(OP),30(本戦) 国立7大戦(皇子山)

100m	小原 明恵 (4年)	12"99(+0.7)
100m	堀越 彩香 (D1)	13"25(+0.3)
200m	瀧山 健 (4年)	22"66(+0.7)
200m	三好 信哉 (4年)	23"54(+0.1)
800m	日下 桃子 (1年)	2'21"17
1500m	西川 鋭 (1年)	4'41"80
400mH	伊勢田 明弘 (4年)	56"27
3000mSC	石原 宏尚 (3年)	9'18"37
3000mSC	岡田 良平 (4年)	9'34"90
走幅跳	大久保 渥子 (1年)	4m32
三段跳	武安 光太郎 (2年)	14m74
三段跳	倉員 智瑛 (3年)	14m42
円盤投	合田 隆彦 (4年)	38m55
円盤投	田上 遼 (4年)	28m09
円盤投	小林 宗隆 (3年)	27m92
砲丸投	合田 隆彦 (4年)	11m18
砲丸投	河本 和美 (4年)	5m20
ハンマー投	庄司 宇 (3年)	38m99
ハンマー投	合田 隆彦 (4年)	33m75
ハンマー投	寺島 孝明 (1年)	25m15

2001年卒	新妻拓弥
2002年卒	後藤真紀子
2002年卒	仁井谷聖実
2003年卒	相原佑康
2003年卒	川添雄太
2003年卒	川添祐佳
2003年卒	橋本武
2004年卒	熊丸拓郎
2005年卒	藤田靖浩
2006年卒	稲垣誠

文責：佐野 太郎

4 主務より

主務 長澤 寛規

七大戦の応援に駆けつけていただいたOB・OGの皆様のお名前を卒年順にご紹介させていただきます。暑い中、ご声援いただき誠にありがとうございました。

(敬称略)

- 1958年卒 浦野穂昌
- 1960年卒 梅田圭良
- 1960年卒 笹治峻
- 1963年卒 井上尚男
- 1964年卒 八島秀雄
- 1966年卒 上田裕一
- 1966年卒 土谷喬
- 1966年卒 村田歎吾
- 1966年卒 西阪広
- 1972年卒 益倉克成
- 1979年卒 中谷敬二
- 1981年卒 野田晴彦
- 1983年卒 小林徹
- 1983年卒 八田秀雄
- 1986年卒 門利いずみ
- 1989年卒 古田泰
- 1994年卒 工藤麻衣子